

平成30年度 事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月

事業所名:ゆりかご

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	スペースが狭いため、活動により配置を変え、スペースを作っている。	
	②	職員の配置数は適切である	5	1	基準以上に配置 1対1対応が必要な場面では、クラス担任に限らず補助にはいるようにしている。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	活動により教室内の空間を変え、分かりやすい構造にしている。 絵カードを使い、視覚的に分かりやすいようにしている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	毎日掃除を行っているが、掃除のマニュアルの見直しをし、消毒や掃除の手順を変え、より清潔な環境づくりを心がけた。	教室の棚の整頓や片付け等、各担任が心がけていく。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	随時行っている 打ち合わせで職員が話しやすい環境を心がけている。	打ち合わせの時間を工夫する。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	29年度よりガイドラインに沿った評価を行い、集計し、保護者に配布。業務改善につながるよう職員間で検討。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	29年度よりガイドラインに沿った評価を行っている。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6	内部監査を行い、業務改善につなげている。	外部評価を検討していく。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	年間研修計画を法人で作成している。	運営規程に従い、各職員年3回以上の研修に参加しているが、より質をあげるために勉強会等実施していく。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	終礼で日々の状況を確認している。週案の打ち合わせ後、ケース会議を行い、分析をしている。	子どもの課題を家庭と職員が共有する。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2	K式検査の結果や報告を活用すること、また医療の同行等を行い、支援につなげている。	太田ステージポータープログラムを活用を考える。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	アセスメント、定期的なモニタリングを行い、ニーズに沿った支援計画を心がけている。(発達支援・家庭支援・地域支援)	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		行っている。	短期・長期目標を明確にして計画を作成
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	計画的に実施。 季節に合わせたプログラムを実施。	安全を考慮した環境を作っていく。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	こころの安定を図り、プログラムを作成している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6		作成している。 個別支援をベースにしてダイナミックな活動を取り入れていく。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	朝礼で活動、その日の流れ等確認をしている。	担任同士、正確に確認できる時間を作っていく。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		終礼で一人一人の様子を伝え、共有している。	問題の対処に終始しないで、原因を探求する。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		毎日児のケースを記録し、職員で共通認識できるようにしている。	記録を活用し、原因を探り探りトラブルを減少する。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		年に3回の面談を実施。	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		児発管や担任が参加している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	1	連絡会へ参加し、情報の共有、伝達をしている。 状況により、保健師や市への相談をしている。	他機関との連携をさらに密にし、ともに支援していく。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	㉕	移行支援として保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		情報共有を行い、スムーズな移行になる様に心がけている。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		かけはしシートを作成し、学校との話し合いをしている。また、事前に様子を伝える事もある。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		連絡会、研修等に参加し、情報共有や勉強をしている。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	4	年長児が保育園に数回交流に行っている。今年度は実施に至らなかったが、今後も続けていく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	3	定期的に関われている事業所連絡会への参加をし、情報共有提供をしている。	地域へつながるよう情報を得ていく。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		毎日の連絡ノートにて、園での様子を伝えている。また、送迎時に口頭でも伝えるようにしている。	事象で止めず、対応方法の共有をする。
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	2	親子教室、懇談会等実施し、保護者との話す場を提供している。	内容を充実し、参加家族を増やしていく。支援プログラムを職員で探る。
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		説明会、入園時等で説明をしている。いつでも閲覧できるように玄関に置いている。	
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		同意を得ている。毎回丁寧に説明をしていく。	療育方針の具体化を図る。
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			家庭でできる支援を明確に伝えていく。
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	父母会は現在ないが、懇談会や親子行事を設け、保護者同士の交流の場を作るようにしている。	
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		行っている。時間や都合を聞き、相談があった日より迅速に対応するよう心がけている。	相談日・担当者を決め、伝える。
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		月1回のおたよりを配布。また、行事の内容等の手紙配布をしている。クラスだよりを検討している。	
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	6		同意書を書いてもらうとともに、随時保護者へ確認を行っている。	
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		信頼関係の構築に努めている。	外国籍の家庭への伝達方法を工夫する。
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地に開かれた事業運営を図っている	4	2	自治会に加入し、近隣のまつりに参加している。地域の方に人形劇をやっていただいている。また、法人として地域の方を招待した行事を行っている。	今後、どのようにゆりかごを知ってもらえるか検討していく。
	非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		利用説明会にて説明。
④2		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		月1回避難訓練を行っている。	
④3		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		入園時、確認を行っている。変更のある場合はその都度報告をしてもらっている。	今後も通院同行を行う。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	保護者と確認をしている。医師からの検査結果を提出してもらっている。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		ヒヤリハットマップ作成やヒヤリハットの見直し、共有をしている。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		研修への参加し、他機関への連絡、情報共有を行っている。	研修で学んだことに対し、職員間で共有できるようにしていく。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	4	運営規定、重要事項に記載をしている。打ち合わせ時に身体拘束について職員間でも共通理解を図っている。	必要に応じて支援計画に記載をしていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。